



Be an ACE! 大志・貢献・活力

県立直江津中等教育学校
H28 学校だより No. 26

平成28年 10月28日(金)
発行

明日は「創立十周年記念式典・講演会」～本校の進むべき道を考えよう！！～

開校1年目の平成19年5月22日、当時の新潟県教育委員会教育次長、大滝祐幸様が当校の視察に来校されたとき、I期生を前に講演されました。本校への期待と激励の思いが込められた講演内容を当時の「Be an ACE」が知らせています。今、十周年式典を前に、本校の進むべき道を再認識するため、大滝教育次長（当時）の講演内容を再掲載します。

1 本当の勉強とは何か、本当の学力とは何か

(1) 勉強するとはどういうことか

「本当の勉強とは何か」こういう質問は、ただ単に勉強ができる人は「本当の学力」をもっていない人だ、テストでいい点をとることは「本当の勉強」ではないというように、テストで高い得点をとる人を否定しようとするときに使われることが多いようです。

しかし、本当の勉強と本当でない嘘の勉強の区別があるのでしょうか。そんな区別を付けることはできないのではないのでしょうか。私は、「勉強するとは、知識の量を増やし、その知識をつなぎ合わせる方法多く身に付けること」であって、そこには本当とか嘘とかの価値観はないと思っています。

そういう意味で私は、学力のある人はどんな人かと問われれば、「正しい倫理観の上に、多くの知識をもっており、その知識を創造的につなぎ合わせることでできる人」と答えます。

そして、学力を身に付けることでできる人とは「基礎的な知識をもち、我慢して集中することのできる体力をもち、より良く生きようという意欲をもつ人」と答えます。

(2) 学力を身に付けるために

学力を身に付けるためには、我慢して勉強に集中することができる体力が必要です。だから、皆さんにも体力を付けてほしいと思います。オリンピックで金メダルを取ってほしいとは言いません。背骨をしっかりと伸ばして先生の話の聞き続けることのできる体力が必要なのです。自分の気持ちを支えることのできる体力を身に付けてほしいと思っています。

文武両道という言葉があります。本来は勉強もスポーツもともに一生懸命に取り組むという意味であったはずなのですが、スポーツの大会で賞を取ることを優先するような意味で使われることが多くなってしまいました。個人の問題として両方に取り組むのであって、当然、全国大会で一位になることは文武両道の目標ではなく、結果でしかないことに気を付けるべきだと思います。

(3) よりよく生きたいという意欲と知識は車の両輪

人間としてよりよく生きたいという意欲は、この体力の上に、たくさん人間としての知識を基礎として湧いてきます。知識のないところに意欲は湧きません。なぜなら、知識のない人は何をすべきかすら分からないからです。また、逆に人間としてよりよく生きたいという意欲がない人は知識を手に入れようとしません。この知識と意欲は車の両輪なのかもしれません。両方ともバランス良く大きく力強くなないと、まっすぐ力強く前進することができないようです。だから、皆さんにはたくさんの知識を身に付けてほしいのです。

学ぶために必要な知識を問うテストで高得点をとることは悪いことではなく、当然のことながら必要なことなのです。テストの点だけが知識ではないという人がいますが、そのことのみならばその通りです。ただ、テストの点が取れないことの言い訳であるならば間違いでしょう。

学校の授業中は、その授業に集中して多くの知識を学んでほしいと思います。いろいろな活動にも一生懸命参加して、多くの知識や技術を身に付けてほしいと思います。今その知識がどう役に立つだろうかと考える必要はありません。今のあなた方の目の前に現れて来るものはすべて大切なことだと信じて良いのです。勉強や苦勞に無駄なものはありません。

2 今、何をしなければならぬのか

(1) 生きている人間

バイオリンやピアノは完成された楽器ですが、人間は未完成の生物です。そして、人間は生き物として成長し、時間の中で動いています。

よく言われることですが、筋肉は、筋繊維を増やすことが効果的な時期と筋繊維を太くするのに効果的な時期とは違うそうです。増やすべき小中学生の時代に筋繊維を太くするようなトレーニングをするべきではありません。

また、人間の脳について考えてみると、生まれた後しばらく目隠しをされると、その後、目隠しをはずされても視力を司る脳の部分は発達しません。もう一生目は見えないのです。ある時期にしか成長しないものがあるのです。そして、人間の脳は、20歳位までで外側の成長は終わってしまいます。

ただ、人間は生命体としても未完成ですから、すべてが取り返しが付かないことではありません。後でやり直しがきくこともあります。ですから、取り返しが付くことと今やらなければならないことを区別することが大切です。そこで、判断する方法を教えてください。

(2) 物事を判断する基準

人生で判断すべき時には、大体次のような基準で判断することができます。それは、

- ① 今やらなければならないこと
- ② 今やった方がいいこと
- ③ 今やってもやらなくてもいいこと
- ④ 今やらない方がいいこと
- ⑤ 今やってはいけないこと

の、どれに当てはまるか整理して考えることです。

今やらなければならないことは、今やらなければならないので、大変そうに見えます。今やってもやらなくてもいいことは、必ずしも今やらなくてもいいのですから楽に見えます。私の経験では、多くは3番目のやってもやらなくてもいいことについて、どうしようと悩む人が多く、今やらなければならないことから逃げないでほしいのです。つらそうなことから順に挑戦してほしいのです。

3 なぜ直江津中等教育学校で学ぶのか

(1) 自分らしくがんばろうとする条件

直江津中等に入学したことは、あなたの人生において、一つの大事な経過で、人生を豊かにするチャンスではありますが、結果でも目標でもありません。

ところで皆さんは、人間が自分らしく生きたい、難しい言葉で言うと自己実現したいと思うのは、どういう条件がそろったときか知っていますか。実は、人間は自分らしく頑張りたいと思ったからといってすぐにそのために行動できる訳ではありません。そこに行くまでの段階があり、それぞれの段階の条件をきちんとクリアしないと次の段階に行けないのです。

その第一段階は、「生命安全の欲求」が満たされることです。戦争のない平和な世界でなければだめなのです。貧乏で今日の食事もできないようではだめなのです。いじめられて自殺したくなるような状況ではだめなのです。

この第一段階をクリアすると次の第二段階の「集団所属の欲求」が生まれてきます。人間は一人では生きていけないのです。家族の一員である、クラスの仲間の中に入れてもらっているという安心感をもてることが必要なのです。それは、良い仲間でなくてもいいのです。例えば、暴走族とか暴力団でも、その仲間の一員であるという満足感を得ることができるのです。だから、残念ですが暴力団がなくならないのです。

この第二段階をクリアすると、第三段階の「承認の欲求」が生まれてきます。自分の所属している集団、家族やクラスの仲間から、おまへはすごくいいやつだな、俺たちの仲間に必要な人間だな、と認められたいのです。赤の他人ではなく、自分が所属している仲間から認められたいのです。

この第三段階の欲求が満たされたとき、人間はいよいよ「自己実現の欲求」という第四段階の欲求をもつようになるのです。自分らしく生きたい、自分の長所を発揮して生き生きと過ごしたい、愛する人

を守りたいという欲求が生まれ、そのために行動できるようになるのです。

皆さんはどの段階ですか。もちろん、生命安全の条件はクリアしていると思います。良い仲間にも囲まれていますか。その良い仲間にも大切なメンバーとして認められていますか。また、孤立したクラスメイトを見て見ぬふりはしていませんか。仲間をほめていますか。仲間を信頼していますか。自分がそうなりたいと思うことと同じことを、君の隣のクラスメイトも思っているのです。

(2) 孟母三遷

ところで、孟母三遷という言葉を知っていますか。昔の中国に孟子という偉人がいました。幼い頃、彼の家は墓地のすぐ近くにあったのです。そのため、いつも葬式ごっこをして遊んでいたのですが、孟子の母は「ここはあの子が住むにはふさわしくないところだわ」と考えて引っ越すことにしました。

移り住んだのは市場の近くでした。孟子は商人のまねをして商売ごっこをして遊びました。孟子の母は「ここもあの子が住むにはふさわしくないところだ」と言い、再び引っ越して、今度は学校の近くに住みました。

孟子は、学生がやっている祭礼の儀式や、礼儀作法の真似事をして遊ぶようになったのです。「ここならあの子にぴったりね」と言い、孟子の母はここに腰を落ち着けることにしました。

やがて孟子は成長すると、六経を学び、後に儒家を代表する人物となったという故事成語です。

人間の成長には環境が大きな影響を与えます。自分で自分を律することができる人は、どんなところでも自分を成長させることができます。しかし、普通の人はそのような力がないから学校で学ぶのです。ある意味で環境を学ぶとは、どんな人間になりたいかということであり、そして最も効率的に成長する環境を選ぼうとするということになります。

ところで環境とは、結局人との触れ合いです。物的環境も重要なのですが、人間の成長に関して言えば、触れ合う人間の構成が重要になります。

(3) この学校をつくるのは誰か

あなた方は、自分の成長のために直江津中等を選んだのです。本当にいやなら受検しなかったはずですが、自分が選んだという事実を決してごまかさないでください。自分で自分の環境を選択したのです。ですから、直江津中等が君の何を成長させてくれるのかを考えてほしいのです。

教科の学習が優れている人が多いだろうからという観点から直江津中等を選んだ人がいるだろうとは思いますが、それを必ずしも否定しません。それは、多くの知識をもっている人の方が、他人の知識欲を触発することが多いからです。学問は知識がなければ成り立ちません。知識のない思考は時間の無駄遣いのことが多いのです。そして、知識は人間から触発されることが多い。もちろん本の中から、自然の中からも多く触発されることがありますが、人間は人間から生きる意味を教えてもらうことが多いのです。

そういう意味で、お互いが自分のもっている知識でお互いを触発しなければ、集団としては価値のある集団とは言えないでしょう。学校とは、集団の中でお互いが触発し合う関係にあるから素晴らしいのです。一対一の家庭教師から学べば、系統的な知識を効率的に学べるように思うかもしれませんが、それ以上に学ぶモチベーションを高めてくれるのが仲間なのです。

直江津中等が本当に素晴らしい学校として育っていくためには、お互いが刺激し合えるような雰囲気をつくれるかどうか全てになります。

もし、世の中に一流校、二流校というものがあるとするならば、一流校とは、入学した生徒の力を最大限伸ばしてくれる学校のことだと思っています。入学した生徒の力を維持する程度で卒業させる学校は二流校で、入学した生徒の力を伸ばすどころか下げて卒業させるのは三流校ではないでしょうか。

私は、直江津中等がこういう意味での一流校、入学したあなた方が自分の力を最大限伸ばすことのできる学校であってほしいし、この学校がそう育ってほしいと願っています。

いい学校には入るのではありません。いい学校にしていくのです。これは構成する人全員の日々の努力が必要になります。

いい学校をあなた方と先生方で作り上げてください。

後期課程の「薬物乱用防止教室」がありました

10月24日（月）の7限に後期課程の生徒を対象に「薬物乱用防止教室」がありました。薬物には覚醒剤、大麻などの他に、危険ドラッグとして「お香」「ハーブ」「アロマ」などと呼ばれ、一見、危険で有毒な物、違法な物と分かりにくい物があるという説明がありました。薬物についての知識がない、危険性が分からないことなどから、全国で中高生の薬物乱用事件が発生していることが分かりました。生徒たちは薬物の危険性を知り、「薬物には絶対に近づかない」という意識を高めることができました。今後も継続して薬物乱用防止について指導していきます。



第1学年PTA、第2学年PTA行事実施～大勢のご参加ありがとうございました～

10月22日（土）の午後、第1学年と第2学年のPTA行事が行われました。1年生はヒップホップダンスの講師を招き、親子でダンスの講習会を開き、70人以上の保護者の方が参加してくださいました。2年生はニュースポーツのキンボールを親子で体験し、90人以上の保護者の方が参加してくださいました。親子で体を動かし、スポーツの秋を楽しむことができました。参加して下さった保護者の皆様、本当にありがとうございました。



今後の予定

- 10月31日（月）式典代休
- 11月 2日（水）カウンセラー来校（午前）
- 11月 3日（木）文化の日 6年河合入試オープン
- 11月 4日（金）4年海外研修事前指導 6年進研駿台マーク（～5日）
- 11月 6日（日）4年海外研修出発 漢字検定 英語検定2次

